

家庭科学習指導案

平成17年12月15日(木)4校時(11:50～12:40)

1年4組(40名)

指導者 県立太田東高等学校 教諭 寺内幸子

指導場所 1年4組教室

I 題材名 考えて行動する消費者になろう

1 考察

(1) 題材観

本題材は、消費生活に関する基礎的な知識を習得させるとともに、消費者として責任を持って主体的に行動できるようにすることをねらいとしている。

経済活動は生活資源の重要な要素である金銭の動きであるが、消費活動に関する条件や価値観は家庭によって様々であり、生徒にとって自己の消費活動を客観的に捉え、判断することは難しい。さらに多くの生徒は親からもらうお小遣いの範囲内で消費活動を行っているため、消費者としての自覚が乏しい。

しかし、現在では金融サービスの増加に伴って、高校生や高校卒業後間もない若者の金融トラブルが増え続けており、高等学校家庭科における消費者教育の必要性が増している。

そこで、「家庭の経済と消費」について消費生活の現状及び消費者の権利と責任を、自分の意識や行動の妥当性を考えながら学習していくことにより、消費生活に関する意識が高まり、消費者として主体的に判断できる力を培うことになると考える。

(2) 生徒の実態

男子20名、女子20名からなる。明るく元気で素直な生徒が多い。授業中も学習課題に対してまじめに取り組むことができている。

「家庭の経済と消費」の学習をするに当たり、消費生活に関するアンケートを行ったところ、以下のことがわかった。

毎月のお小遣いは9割以上の生徒が「家族からもらっている」と答えている。しかし、月々決まった金額をもらうのではなく、「必要なときに必要な分だけもらう」という生徒が約1割いる。また、日常的に使っている携帯電話の料金をお小遣いの中から払っている生徒は1割にも満たない。その一方、販売信用への関心は高く、「クレジットカードを持ちたい」という生徒は約4割おり、知っている消費者金融の会社名を書かせたところ、1人あたり平均3.7社をあげられた。このことから、生徒の消費行動の意識は、非常に限られた範囲のものである一方、繰り返し流れるテレビコマーシャルの影響によりイメージのみが先行しているものと考えられる。

以上のことから、消費生活の現状及び消費者の権利と責任について理解させ、消費者として主体的に判断できる能力を身につけさせることが必要であると考えられる。

(3) 題材の系統性

小学校 家庭科	(7) 身のまわりの物や金銭の計画的な使い方を考え、適切に買い物ができるようにする。 ア 物や金銭の使い方を自分の生活とのかかわりで考えること。 イ 身の回りの物の選び方や買い方を考え、購入することができること。		
中学校 技術・ 家庭科	B 家族と 家庭生活	(4) 家庭生活と消費 ア 販売方法の特徴や消費者保護について知り、生活に必要な物資・サービスの適切な選択、購入及び活用ができること。 イ 自分の生活が環境に与える影響について考え、環境に配慮した消費生活を工夫すること。	
高等学校 家庭科	家庭基礎	家庭総合	生活技術
	(3) 消費生活と環境 ア 家庭の経済と消費	(5) 消費生活と資源・環境 ア 消費行動と意思決定 イ 家庭の経済生活 ウ 消費者の権利と責任	(2) 消費生活と環境 ア 家庭の経済と消費

2 指導目標

社会の変化と消費生活及び消費者の権利と責任について理解させ、消費者として主体的に判断できるようにする。

3 評価規準

関心・意欲・態度	社会の変化と消費生活、消費者の権利と責任について関心を持ち、適切な意思決定や消費行動について考えようとしている。
思考・判断	消費者として主体的に判断できるようになるために、消費生活の現状と課題、消費者の権利と責任について考えを深めている。
技能・表現	社会の変化に伴う消費生活の課題について具体的な事例を調査・研究したり、発表したりすることができる。
知識・理解	消費生活の現状と消費者の権利と責任について理解している。

4 指導方針

- (1) ワークシートで自分の消費活動を見直すことを通して、消費者としての自覚を促し、自己の考えや行動の妥当性を考えさせるようにする。
- (2) 消費生活の現状と課題について長所や問題点をワークシートにまとめることで理解を深めさせるとともに、適切な意思決定や消費行動をとることが消費者の責任であることを自覚させ、そのことが日常生活に生かせるようにする。
- (3) 契約、消費者信用、問題の発生しやすい販売方法について具体的な事例を取り上げることにより、適切な利用ができるようにさせる。
- (4) 学習を進めるに当たっては、個別学習、グループ学習、全体学習を柔軟に組み合わせる。

学習指導案（6時間予定 本時はその1）

1 主題 購入の意思決定

2 目標

社会の変化に伴う消費生活の変化について、様々な問題が発生している現状を理解させ、商品購入時に必要な意思決定能力が求められていることを認識させる。

3 展開

学習内容	時間	支援及び指導上の留意点	評価規準（方法）
1 現代の消費生活の問題点を理解する	5分	○社会の変化に伴い消費生活の問題も変化していることを知らせる。	
ワークシートにまとめる。	15分	○ワークシート1に消費生活の特徴、長所、問題点をまとめさせる。	まとめができている。(観察、作品)
自分の考えを書き出し、振り返る。	5分	○「SCENE1」に取り組ませる。 ・日常の消費活動を振り返り、各自が消費者であることを自覚させる。	自分の考えを書き出している。(観察)
商品購入のシミュレーションをする。	15分	○ワークシート2に取り組ませる。 ・購入時には、要求する要素をはっきりさせることが必要であることを知らせる。 ・購入には商品の情報収集が必要であることを知らせる。 ・各自が思いつくマスに書き込ませる。 ・自分の答えに反対の考えをさせ、すべてのマスを埋めさせる。 ・友達と話し合い、別の考えがあることを知らせる。	自分の考えを出している。(観察、作品) 異なる考えを出している。(観察、作品)
本時の学習内容を確認する。	5分	・商品購入時には常に意思決定のプロセスをたどることが必要であることを知らせる。	友達の意見を聞き、書き込みをしている。(観察)
次の学習予定を知らせる。		○自己評価をさせる。 ・本時の取り組みを振り返らせる。 ・今後の商品購入について考えさせる。	自己評価に取り組んでいる。(自己評価)

学習指導案（6時間予定 本時はその2）

1 主題 消費者問題

2 目標

消費者問題の発生の背景について考えさせ、問題の発生しやすい販売方法を具体的に理解させ、消費者としての適切な判断ができるようにする。

3 展開

学習内容	時間	支援及び指導上の留意点	評価規準（方法）
1 消費者問題の定義を理解する。	5分	○ワークシート1で消費者問題とは、自分たちの権利が侵害される問題であることを知らせる。	
2 消費者問題の移り変わりを理解する。	10分	○ワークシート2に消費者問題の移り変わりをまとめさせる。 ・社会の変化に伴い、消費者問題が変化していることを知らせる。 ・現在の問題点を強調する。	積極的に取り組んでいる。（作品） （テスト）
3 自分の考えを書き出し、振り返る。	5分	○「SCENE2」に取り組ませる。 ・アポイントメントセールスの対応をシミュレーションさせ、消費者問題が身近であることを自覚させる。	積極的に取り組んでいる（観察）
4 主な悪質商法を具体的に理解する。	20分	○ワークシート3に取り組ませる。 ・悪質商法に対する自分の気持ちを振り返る。 ・それぞれの商法の手口を知る。 ・書き出した手口は悪質商法のほんの一例であることを強調する。 ・身近になってきたメールやインターネットのトラブルを強調する。	積極的に取り組んでいる。（観察） （作品） （テスト）
5 本時の学習内容を確認する。	5分	○自己評価させる。 ・様々な販売方法があり、適切な利用が大切であることを知らせる。 ・不要なものはきっぱりと断るなど、主体的な態度が求められることを理解させる。	今後の活動について、自分なりの新たな考えを持っている。（自己評価）
6 次回の学習予定を知る。	5分	・各自の今後の購入活動について考えさせる。 ○被害にあったときの対処法を知ることが必要であることを知らせる。	

学習指導案（6時間予定 本時はその3）

1 主題 消費者保護基本と消費者の責任

2 目標

「消費者保護基本法」を基に、消費者の権利と消費者保護の必要性について理解させる。

3 展開

学習内容	時間	支援及び指導上の留意点	評価規準（方法）
1 消費者を守る法律について理解する。	15分	○ワークシート1で法律の内容と名称をまとめ、理解する。 ・実際に活用できるように、学校付近の消費生活センターを知らせる。 ・身近な商品でPL法対策の例をあげる。	積極的に取り組んでいる。（作品） （テスト）
2 自分の考えを書き出し、振り返る。	5分	○「SCENE3」に取り組ませる。 ・消費者として必要な態度を考えさせる。	積極的に取り組んでいる（観察）
	15分	○ワークシート2で消費者の権利と義務をまとめる。 ・それぞれの権利や義務が自分に与えられているもの、果たさなければならないものだとすることを理解させる。	積極的に取り組んでいる。（観察） （作品） （テスト）
3 本時の学習内容を確認する。	5分	○ワークシート3に取り組ませる。 ・学習内容の確認をする。 ・実生活に置き換えて考えてみる。	正しく書き込まれている。（観察・テスト）
4 自己評価をする。	10分	○自己評価させる。 ・消費者保護の法律を理解したか。 ・消費者の権利と義務を理解したか。 ・自分は今後、消費者としてどのように行動したいか。	今後の活動について、自分なりの新たな考えを持っている。（自己評価）

学習指導案（6時間予定 本時はその4）

1 主題 契約社会

2 目標

契約の意味を正しく理解し、契約における権利と義務を正しく理解できるようにする。

3 展開

学習内容	時間	支援及び指導上の留意点	評価規準（方法）
1 契約の定義を理解する。	5分	○ワークシート1で契約の定義を理解する。 ・契約とは法律行為であることを強調する。	積極的に取り組んでいる。（作品） （テスト）
2 身のまわりの契約	5分	○ワークシート2に取り組む。 ・生活の中から契約を探し、自分も契約をしていることを自覚させる。	積極的に取り組んでいる（観察）
3 消費者信用の定義を理解する	15分	○ワークシート3に消費者信用についてまとめる。 ・信用によってもものやお金が動くことを理解させる。	積極的に取り組んでいる。（観察）
4 クレジットカードについて	5分	○「SCENE 4」に取り組ませる。 ・クレジットカードについての自分の考えを書かせる。 ・クレジットカードには長所と短所があることを強調する。 ・「三者間契約」を理解させる。	（作品） （テスト）
5 契約成立の条件		○ワークシート4に契約成立の条件をまとめる。	正しく書き込まれている。（観察・テスト）
6 クーリングオフ制度	10分	○ワークシート5にクーリングオフ制度についてまとめる。 ・条件があるため、安易な契約は危険であることを強調する。	今後の活動について、自分なりの新たな考えを持っている。（自己評価）
7 自己評価		○自己評価をさせる。 ・契約について理解したか。 ・自分は今後、契約に対してどのような態度で臨みたいか。	

学習指導案（6時間予定 本時はその5）

1 主題 消費者信用

2 目標

消費者信用の仕組みと問題点について理解させる。

3 展開

学習内容	時間	支援及び指導上の留意点	評価規準（方法）
1 消費者信用について理解する。	5分	○ワークシート1で消費者信用を説明する。 ・借金であることを強調する。 ・利子について説明する。	
2 クレジットカードについて	5分	○ワークシート2に取り組ませる。 ・利用する際の現実的な問題を理解させる。 ・間違いやすい点を強調する。	積極的に取り組んでいる。（観察）
3 消費者金融について	10分	○SCENE5で取り組ませる。 ・消費者金融について自分の考えを書かせる。	積極的に取り組んでいる。（作品） （テスト）
4 消費者金融の利用について	15分	○ワークシート3に取り組ませる。 ・返済額の計算方法を知らせる。 ・返済額を書き込み、利用について考えさせる。 ・適切な利用が大切であることを強調する。	正しく書き込まれている。 自分の意見が述べられている。 （作品）
5 多重債務について	10分	○ワークシート4に取り組ませる。 ・消費者信用の安易な利用が多重債務につながることを理解させる。 ・自己破産は権利の制限を伴うことを説明する。 ・多重債務の対応策を知らせる。	正しく書き込まれている。（作品） （テスト）
6 自己評価をする。	5分	○自己評価させる。 ・消費者信用の問題点を理解したか。 ・消費者金融と多重債務について理解したか。 ・自分は今後、消費者としてどのように行動したいか。	今後の活動について、自分なりの考えを持っている。 （自己評価） （作品）

学習指導案（6時間予定 本時はその6）

1 主題 発言する消費者になる

2 目標

自己責任の時代に消費者として何が求められているのかを理解する。

3 展開

学習内容	時間	支援及び指導上の留意点	評価規準（方法）
1 目指す消費者像を理解する。	5分	○ワークシート1で目指す消費者像を理解させる。 ・適切な意思決定のプロセスを理解させる。 ・各段階の要素を理解させる。	
2 自分の考えを書き出し、振り返る。	10分	○「SCENE 6」に取り組ませる。 ・消費者問題について考えさせる。 ・社会的な観点から考える。 ・自分の問題として考える。 ・友人の発表を聞き、異なる考えがあることを知らせる。	積極的に取り組んでいる（観察） （作品）
3 消費者問題について復習する。	10分	○ワークシート2でトラブルが起ころうな事例を○×クイズで確認する。 ・間違いやすい点を強調する。 ・正しい知識がないと大きな問題に発展する可能性があることを知らせる。	積極的に取り組んでいる。（テスト）
4 トラブルにあっていく友人に手紙を書く。	10分	○ワークシート3に取り組ませる。 ・これまでに学んだ具体的な解決策を複数示すように指示する。 ・今後についてのアドバイスも入れさせる。	積極的に取り組んでいる（観察） 具体的な解決策が示されている。 （作品）
5 消費者としての自分のあり方を考える。	5分	○ワークシート4に取り組ませる。 ・消費者としてどのように活動していきたいかを具体的に示させる。	今後の活動について、自分なりの新たな考えを持っている。（自己評価）
6 自己評価をする。	5分	○自己評価させる。 ・自分は今後、消費者としてどのように行動したいか。	